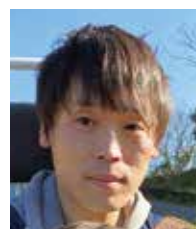


島の景観に寄り添ったアートを

上島町 商工観光課 商工観光係 徳田 健太郎



上島町の紹介

瀬戸内海のしまなみ海道の隣に位置する25個の島で構成される離島のまち上島町（かみじまちょう）。1日に180便以上もの船が行き交う便利な町で、短い航路では船に乗っている時間は約3分とあっという間です。島の原風景や歴史・文化がいまだに多く残る、日本でも貴重な場所です。日本でも美しい村連合にも加盟している真正正銘美しいまちです。

近年、サイクリングルートとしても適している上島町へたくさん観光客が訪れるようになってきました。そして、食や宿、景観、自然・文化体験など様々な観光コンテンツのある島々に周遊性をもたすためのきっかけとなる「ア



弓削島「天の花」



生名島「みんなのクジラ」

漠然と島×アートで思い浮かぶのは直島や小豆島などの瀬戸内国際芸術祭の舞台となっている島々でした。過去、実際に小豆島に行き、様々なアートを見てきた経験思い返して、印象に残っているものは何か、何故印象に残っているのかを考えた。すると、自然の中にあるアートで、周りの景色から浮きすぎず一体となった作品が美しい印象をいまだに心に残している事に気付きました。上島町に創るならそんなアートが良い。そして、上島町らし

「ト」を創作したいという想いから瀬戸内かみじまアートプロジェクトが始まりました。島らしいアートとは

いアートにしたいと悩み続けていたときに、ふと島の景色の中にたびたび登場するものに気付きました。地域のフォトコンテストやインスタグラム等の投稿にも度々登場する島の代表的な構造物「防波堤」です。この構造物に施したアートと後ろに広がる美しい景色が合わさった時、その場所は特別な場所になるのではないかと思います。ようやく企画書の作成が進み始めました。

企画提案から事業実施まで

企画段階で上島町観光協会の伊藤事務局長に相談すると、企画に賛同してくださり一緒に企画書を作ってくれることに。当初、考えていた案が見る間にブラッシュアップされていき、それに伴いワクワク感も次第に増していききました。アイデアの他に企画段階で必要



岩城島「海のおとを聴く」

なのが事業を実施する財源の確保です。そこに、タイミング良く一般社団法人自治総合センターのコミュニケーションティ助成事業の募集があり、すぐさま申請書や実施計画の作成にあたりました。観光協会や課内、県庁関係課にご協力いただいたおかげで無事事業が採択され、いよいよ事業実施です。

楽しい日々

作品を募集するまでも、審査員の決定や周知用ポスター等の作成、募集要項の作成に場所の選定および許可手続き…やることは山ほどあります。企画段階からそれらを支え続けてくれたのは上島町観光協会です。日本を代表するアートディレクター goen. の森本千絵氏が本事業の審査員になってくれたのも、尾道市立大学の桜田知文教授や愛媛県美術館の八木誠一氏、三浦工業ミウラート・ヴィレツジの上岡千恵学芸員など審査員全員が審美眼を持った素晴らしい人達で構成されたことも、公募や応募作品の取りまとめがスムーズにできたことも上島町観光協会のおかげです。忙しくも楽しい日々はあっという間に過ぎ、気付けば応募締切日。瀬戸内海の小



学生審査の様子

さな島の小さな企画に集まった作品はなんと47作品。その中からそれぞれの防波堤の景色にあった作品を選びます。最終的に選ばれた作品はまさしく景観に寄り添い、それぞれの場所にあった上島町らしい作品が選ばれました。

地域と一緒に創り上げる

本アート事業は審査の段階から弓削高等学校や弓削商船高等専門学校の生徒に参加してもらっています。貴重な体験を子供達にしてほしいという想いと、地域に住む子供の目でも作品を選んでほしいという想いから制作ボランティアだけでは足りないところでも関わってもらう事にしました。また、町内放送でアーティストの制作期間を流すと物珍しさからか沢山の人が見に行き、様々な差し入れまでしてくれました。島の柑橘や缶コーヒ、パンなどなど。

海に落ちたアーティストの下書きと一緒に拾ってくれた方や一緒に色を塗った方、ペンキで自由に落書きをした小学生たちなど。普段は人が集



子供達も参加したワークショップ

うような場所ではないところ。老若男女問わず集まり談笑している光景は見ていられるだけで心が豊かになります。きつと、いろんな人の想いで出来たその場所。それはただ「アート作品」がある場所だけではない特別な場所になったと思います。

プロジェクトを終えて

制作が終わり、各アートを施した場所には地域の人や観光客がたびたび訪れ、いまだにSNSや情報誌へたくさんの掲載がされています。今回のプロジェクトは観光協会と町がそれぞれの得意なことを活かしながら一体となつて取り組んだことでよりよい事業になったと思います。そして、アートには政治も地区も関係なく様々な人を集める力があり、そこから少しずつ町が良い方向に変わっていくような可能性を感じています。これからアートを通じて観光だけではなく地域づくりも進んでいく事を願い、継続した事業となるよう邁進していきます。



学生ボランティア